

研 究 速 報

く、ステンレス鋼表面では既報⁸⁾のように、室温と高温で炭素と酸素ピークの成長の関係が逆転する。また、二硫化モリブデンの場合、室温では炭素ピークの成長が著しかった。このように、同じ酸化炭素の吸着した表面でも、電子衝撃により生成する物質が下地によって異なるということは、注目に値するであろう。

(1971 年 2 月 24 日受理)

文 献

1) J. P. Coad, H. E. Bishop and J. C. Rivière: Surface

Science 21 (1970) 253
 2) 三浦忠男, 浅尾薫, 辻泰: 生産研究 23 (1971) 226
 3) 小宮宗治, 成沢忠: 第 11 回真空に関する連合講演会予稿 (1970) p. 53
 4) T. W. Haas and A. G. Jackson: J. chem. Phys. 44 (1966) 2921
 5) T. W. Haas, J. T. Grant and G. J. Dooley: Phys. Rev. B 1 (1970) 1449
 6) K. Hayek, H. E. Farnsworth and R. L. Park: Surface Science 10 (1968) 429
 7) L. D. Matthews: Surface Science 24 (1971) 248
 8) 三浦忠男, 辻泰, 浅尾薫: 生産研究 23 (1971) 230

正 誤 表 (4 月 号)

ページ	段	行	種 別	正	誤
24	左	14	本 文	$std(n_q) = 1/2\sqrt{3} fr$	$std(n_q) = 1/12fr^2$

